



福島県  
知事賞

## 私は東日本大震災を知らない

福島県立安積中学校  
さいとう はるき  
齋藤 陽樹

私は東日本大震災や原子力災害について知らない。今年「福島学カレッジ2025・サマーフィールドワーク」に参加して私が一番に思ったことです。

福島に生まれてこれまで、学校や家庭で震災について学んだつもりでいました。

しかし、福島学カレッジでは震災や災害から一四年が経過した今でも避難者が一万人を超えていてことや自分達の生活再建がまだ半ばであるということ、今なお震災や災害は続いていることを知りました。

そして、復興に尽くしている最前線の現場を見て、たくさんの人達の話を聞くことができました。皆さんが福島・ふるさとのことを考えて懸命に努力していることも知り学ぶことができました。

その学びから、私たちの震災や災害を直接知らない人たちが、これから福島について考えて行動することが大事だと思いました。

そこで、私は福島のこれからについて二つのことを提案したいです。

一つ目は、「福島についての学びを広げ深める」ことです。私のように福島に生まれて福島で育ってる人は、今以上に福島について知り学ぶ必要があると実感しました。

「リプルン福島」「東日本大震災・原子力災害伝承館」「東京電力廃炉資料館」など震災や災害について学ぶことができる施設がたくさんあります。

広く児童・生徒の利用を増やして行くために、夏休みに震災や災害の施

設ビンゴを行ってみてはいかがでしょうか。地場産品をビンゴの商品にして関心をもってもらいたいです。

さらに学びを広げるために、学校での利用を広げるためにバスの利用の補助をすることもできるのではないかでしょうか。宿泊学習や修学旅行でも施設を利用してもらいたいです。

そして、学びを深めるためには「福島学カレッジ」のような生徒同士が体験し、語り合って学びを深める場を継続していくべきです。

二つ目は、浜通りに「福島フラワーロード」をつくって観光客を呼び込むことです。

浜通りの市町村では富岡町の「夜の森桜並木」、「つつじ再生プロジェクト」や葛尾村の「クリムゾンクローバー」などたくさんの市町村が復興の一環として花を育てて環境整備をしています。これを「福島フラワーロード」として、花を中心に復興の姿をまとめてみるのはどうでしょうか？

今以上に浜通り市町村の浪江町のコスモスや広野町のヤマユリなどの市町村の花を使って市町村ごとに特色を出して環境整備をしていきます。

どの季節に行っても浜通りを花があふれる「福島フラワーロード」にして、花がもつ力で福島へ観光客を呼び込み、浜通りを花通りにすれば、福島の活性化につながるのではないかでしょうか。

私はこれからも福島について学び、福島について考え、福島に役立つ人になりたいです。